

AmiVoice® Ex7 Rad 導入事例

読影した内容をマイクに向かって話すだけで報告書を作成できるので、キーボード入力より負担なく、詳細な報告書をスピーディーに作成できます。

医療法人社団 田端放射線科クリニック
院長 横山 佳明先生
所在地 東京都北区
診療科 放射線科、内科
導入時期 2003年4月



Before

- ・読影レポートの作成に時間がかかる。
- ・読影内容を省略します。

After

- ・報告書を診断と同時に作成、また、より詳細な報告書を自在に作成。
- ・一日の読影件数を増加。

Q. 当ソフトをどのようにご利用いただいていますか？

CT検査が終わった患者様の目の前で、画像診断しながらマイクに向かって報告書を作成しています。報告書は情報提供書となるものですから、出来るだけ詳細な情報を記載したいと思っています。しかし、読影したすべての事をキーボードで打つのでは大きな負担になるので、省略してしまいがちです。その点、**AmiVoice®**を使えば、読影して話した言葉がそのまま報告書に入力できるので、負担を軽減しつつも詳細な報告書を作成することができます。とても素晴らしいです。

Q. キーボードと比較して、報告書作成の時間は短くなりましたか？

格段に速くなりました。一度音声入力を使ったらもうキーボードには戻れませんね。遠隔画像診断も含めると、一日に100件くらい読影することもありますから、読影だけでもかなりの時間を要します。読影は詳細に行いたいので時間を割きたいし、読影のスピードも上げることはできません。そうすると、報告書の作成時間を削減することが命題となり、音声入力は不可欠なツールとなっています。そうして、一日に読影する件数を増やすことができるため、患者様をお待たせする時間を極力減らすことができます。



Q. 先生は患者様の前でレポートを作成するとのことですが、患者様の反応はいかがでしょう？

音声入力を初めて見る患者様はほとんどなので、皆さん非常に驚かれます。目の前で、話した言葉がそのまま文字になって画面に入力され報告書が出来上がる様子は画期的で大きなインパクトを与えています。そして「あそこの病院、音声入力を使っていて進んでいるのよ。」と、最新技術を積極的に取り入れている医療施設というイメージを持ってもらえます。



Advanced Media, Inc.